

忘るまじ

東日本大震災



番外編

発災当日〜2日目にかけて

、二本部庁舎には、付近に勤務する従業員や住民の皆さん500人弱が避難してきました。庁舎内の会議室、廊下にうすくまる避難者の皆さんに、職員用の毛布、非常食料、飲料水を配布したため、以後、職員用の非常食がないという事態に陥りました。周辺のスーパーマーケットなどは、停電よりの営業困難であったためか、地域住民の皆さんに店内在庫を無償提供した後は閉店しており、結果的

非常用糧食やガソリン備蓄

に災害対応に当たると二本部職員は、1カ月余りの長期にわたり食料の確保が

できない状況となりました。

こうした状況を見越した

二本部長は、発災3日目から、帰宅可能な職員に、自宅に帰り各人が市内から食料を調達し、家族とともに

供を受け、非常食料の代わりに活用させていただけたのが救いでした。

現場で災害対応に当たっていたC型巡視艇におい

ても、非常用食料の備えが

なかつたため、数日間にわたり食事なしの状態が続

被災者の困窮を前に、自分たちだけが優遇措置を受け

ることは、当時の我々には

思いもつかない恥ずべきこ

巡視艇の食料や燃料補給の

二本部では震災後、巡視船艇の船内に備え置く糧食

の備蓄基準を示しましたが、現状はどうなっている

のでしょうか。管区本部、

発災時には避難者などへの提供ですぐに底を尽くこと

自衛隊との間で融通協定を

食事をするように指示しました。運用司令室に詰めた職員は、帰宅することができず、自分で食料を調達でき

ない状態でしたが、幸い

食品加工工場経営者の方から、停電で冷蔵保存がで

なくなつた大量の笹かまぼ

に感謝したという逸話も後日談で側聞したところで

です。

後日、東北方面総監部防衛部長（JTF司令部）と

言及したところ、自衛隊には食料備蓄が十分にあ

ため、被災地以外でこれらの調達に当たらせました

が、既に全国的に買いだめ

現象が起きており、調達に

はかかなりの期間を要しました。

が、非常に全国的に買いだめガソリンの融通についても

協定を結んでおく必要がある

と考えます。

ちなみに私は、1カ月で10以上の震災ダイエツトに成功しました。

現在は、自衛隊との間で

非常時における燃料等の融通に関する協定が締結され

ていると承知しています

が、非常用糧食や自動車用

の調達に当たらせました

が、非常に全国的に買いだめガソリンの融通についても協定を結んでおく必要があると考えます。

・近藤悦広